



# 金融財政

2006年(平成18年) 8月7日 (月) 第9766号 (購読料金 月額税込み5,565円)

## 「経済財政白書」が面白い

お茶の水女子大学教授 篠塚英子



今年の「経済財政白書」は面白い。目次を見るとデフレという言葉の登場は力所だけである。金利機能をねじ伏せたゼロ金利政策から6年5カ月、7月ようやく正常な状態に戻った。その記念すべき年の白書というメッセージが読み取れる。

白書は国民が最も関心ある3分野に分け、金融・資産市場、企業行動そして家計から見た所得・資産格差問題を取り上げている。過剰な設備、不良債権、そして雇用の後始末の丁寧な分析である。

特に、最後の格差問題は小泉政権5年間の評価と絡めて、市場競争原理が背景にあるのではないか、という論争を招いた。そこで各種統計の違いをバランスよく解説している。労働所得で見たジニ係数は足元で緩やかに拡大を示していること、特に若年および高齢層が要注意であること、資産格差の拡大に注目すべきこと等、が明らかにになっている。

他方、景気回復はマクロの労働分配面の調整からも確認できる。「国民経済」で見た労働分配率(雇用者所得を国民所

得で割った割合)は、2000年度の73.0%から04年度は70.7%まで低下した。政府お墨付きの下、企業が実施したリスクテイクチャレンジの「成果」である。企業のコスト削減は功を奏し、空前の高収益につながった。

これらは長いトンネルに入り立ち往生したデフレ経済にとって、避けて通れなかった政策であった、といわれる。しかし、そうした評価がなされる前に、この間にとられた異例の金融政策が国民の所得・資産にどう影響したのかという分析が、まず必要であろう。

幸い内閣府国民経済計算調査会議のFISIM検討委員会で報告が公表され、現在、参考試算値の広報とそのパブリック・コメントを募っている。

FISIMとは「間接的に計測される金融仲介サービスの計測」のこと。すでに実施されているEU方式を手引きに推算された日本のFISIM試算によると、04年度GDPを約14兆円(GDPで2.8%)増加させた。内訳は企業等で4兆円、預金者等10兆円であった。GDP統計に確定される前に、ぜひ識者の意見を聞きたい「試算値」である。

### CONTENTS

●インタビュー 追加利上げ「年内」排除せず、 経済物価動向見極め 福井俊彦日銀総裁が単独会見一詳報…………… 2	●あと・らんだむ (神崎倫一) ……………12
●BANCO (鈴木淑夫) …………… 3	●マーケットレーダー (牧野義司) ……………13
●照一隅 預金者に恩返し(文) …………… 5	●国際経済 「インフレ目標」導入へ漸進—FRB……………14
●解説 設備投資の「増勢」続く、 過大化には要注意(公文 敬) —8月の景気動向と金融情勢 …………… 8	●翔んでけスポーツ (谷口源太郎) ……………15
●インサイド ハシリュウと「失われた10年」 9	●世界の金融—西・東 (ロンドン) ……………17
	●書評 高木 仁著 『アメリカの金融制度』(改訂版)(立脇和夫)18
	●資料 2006年3月期銀行決算⑧ ……………19
	●北風・南風 北洋銀行(北海道) ……………20